

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000835		
法人名	NPO法人 すばる		
事業所名	グループホーム すみれ		
所在地	北海道北見市留辺薬町花丘22番地31		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年9月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action_kouhvou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000835](http://index.php?action_kouhvou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000835)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中に囲まれた平屋の木造作りで、温泉街の近くに位置しています。ホームの横では畑を作っており、入居者の方と一緒に旬の作物を収穫し楽しんでいます。近くの「山の水族館」への見学や、北見の「菊祭り」へ参加など楽しんでいます。入居者さんの要望によりご家族様に会いに行く支援も行ってあります。日常生活では入居者の方とスタッフが支えあい生活しておりますので、掃除や洗濯は参加できる用入居者の皆さんと一緒にっております。入居してから終末期まで安心して過ごせるホームを目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成27年8月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

留辺薬町温根湯地区の山あいにある自然豊かな地域に位置する平屋建て1ユニットのグループホームすみれは、開設時からの理念「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくりと のんびりと」に込められた思いの実現に向け、利用者1人ひとりを大切に介護支援に取り組んでいます。利用者本位の支援には職員の育成が欠かせないと管理者は内部研修は基より、毎年職員全員がそれぞれに見合った外部研修に参加する様促しています。更に今年度は、他グループホームとの職員交流を実施し、学び合いを行っています。利用者職員は、ケアをする人される人の関係ではなく、お互い人間同士として関わり合い支え合う事を目指しており、利用者同士も自然と支え合っている様子が伺えます。管理者、職員は日常の関わりの中で常に「利用者にとってどうなのか」との視点に立ち、一つ一つの介護提供をより良い方向に導く為の努力をし、ケアプランチェック表や看取り時に更なる指針を作成する等工夫を重ねながら取り組んでいます。開設から10年目を迎え、管理者は、職員が意欲を持って仕事に従事出来る様、今年度からキャリアパス制度を導入したり職員アンケートを実施し、職員の疑問や不安を把握し就業環境整備に努めています。又、法人のもう一つのグループホームと共同でホームページをリニューアルしブログで事業所の様子を発信し、地域に開かれた事業所を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有についてホーム内に掲示しているが、職員全体での共有には至っておらず、会議やミーティング等で共有し深め行きたい。	開設時からの理念を玄関、台所、茶の間、事務所に掲示し、周知する中で実現に向けた支援に取り組んでいます。今後さらに理念を具体的な実践に繋げるべく目標を設定する事を検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会には参加しているが、地域のイベントの参加や、地域の一員としての参加は十分に出来ていない。	町内会に加入し忘年会等に出席し事業所を理解して頂けるよう取り組み、災害時の協力関係を築いています。熊対策の為に地元猟友会から情報提供を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた取り組みには十分にまだ行き届かず、これからの働きかけが必要である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の年6回までの開催までは達成していないが、会議等では十分にホーム等の取り組みやサービスについての話し合いが出来ている。	二カ月毎定期的に開催し、事業所の状況や予定等を説明し、意見交換に努めていますが、家族の参加が得られておらず、情報の共有も不足している状況と成っています。	定期的な開催を継続し、家族の参加が得られる工夫と家族、職員、参加者メンバーと情報共有し、事業所の運営に活用していく事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センター職員や行政職員の参加を得ており、情報交換やアドバイスを受ける等、関係機関と連携を取りながら運営に反映させています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対するケアの取り組みについての理解が出来ている職員は7割ほどである為、マニュアルは作成しているが、再度会議等で周知出来る様努める。	内部研修を行い身体拘束の弊害について学び、認識の共有を図っています。疑問がある時には、その都度話し合いの機会を持ち、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について理解できている職員は8割ほどであり、全員が理解出来る様再度会議等で周知出来る様努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用についての話し合いは、まだ十分に出来ておらず、外部や内部研修での理解が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の結末は入居時と、その都度変更になった場合は、文章と説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会(運営推進委員会の参加)を設け、それらを運営に反映させている	二カ月に一度事業所便りを送付すると共に、家族の訪問時には状況を説明しています。利用者、家族からの希望や要望は連絡ノートに記入し情報共有に努め、必要時には職員間で話し合い実現に繋げています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会の会議等は十分とは言えないが、これから提案できる機会が十分に出来る様努めていきたい。	管理者は、日常業務時や会議時、更に職員アンケート等を通し職員の意見や提案、不安、疑問等を把握するよう努め、キャリアパス制度の導入や、会議時の時間外手当等、就業環境整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限りの範囲で職場環境・条件等の整備に努め、キャリアアップ制度の導入をし給与水準が明確に分かるよう表に示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここ一年間研修等の参加に力を入れており、目標は1年間かけて全員研修に参加出来る機会を確保している。作業療法士や歯科衛生士の方に講習を依頼し、事業所全体で内部研修できる様予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	7月に他のグループホームとの交流会を行い、ネットワーク作りや、交流会により職員に意欲向上につながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が必要としている支援を見極め、福祉用具など他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物、ご飯作りや野菜の収穫など共に共同して行い関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、日々の様子をご家族へお伝えし、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも気軽にホームに来ていただける様な雰囲気作りに努めている。	友人や親せきの訪問を歓迎したり、行き慣れた商店へ買い物に出掛けたり等、利用者のこれまでの関わりを大切にした支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達の関係がより良好に生活出来る様、利用者の方同士自然と出来ない事に対してお互い助け合う姿勢を大切に、見守りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあればフォロー出来る様、経過を管理側でフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らしの希望に沿って自立した生活が出るよう努めている。	管理者、職員は利用者との日々の関わりの中で希望や要望の把握に努め、自己決定を促しながら、希望に沿った暮らしの実現に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活等は、情報にまとめて、把握出来る様に努めている。都度新しい情報は付け加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態やできる事の可能性を常に把握し、記録などに残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、関係者と話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族、関係者の意見を取り入れた介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。ケアプランチェック表を作成し、毎日記入する中で介護計画実施状況を把握し、介護計画作成に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や気づきを記入し、ケアプランに沿って介護が行えているか、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に応じて、都度ミーティング等開きサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ十分とは言えないが、できるだけ本人が、力を発揮しながら安全で豊かな暮らしが出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方には、馴染みの病院にかかれるよう出来るだけ希望に沿った支援をしている。状態に応じて往診も受ける体制も出来ている。	馴染みの病院に通えるよう職員が付き添い支援しており、遠方の病院に受診する際は4人態勢で勤務しています。希望している利用者には往診も行っていきます。月二回の訪問看護で利用者の健康管理が行われており、24時間対応の態勢が整っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、その都度健康管理や、変化について相談し助言や協力体制を作る事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行って	入退院時、利用者の情報提供書で状態を伝え、安心して早期退院出来る様関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行っており、重度化や終末期に向けて家族、本人、主治医と話し合いチームでケアを行っている。	入居時に重度化、看取りの指針について説明し同意書を交わしています。症状に変化があった時には医療機関・家族と話し合い個別の看取り指針を作成しています。年に一度は研修を実施し、看取りの際には夜勤帯に待機職員を配置し、家族・利用者が安心して向える様に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初級対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、救命救急などの定期的な訓練は乏しく職員の不安もある。今年度は内部研修での救命救急訓練を予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されており、火災避難訓練等にも参加して頂いているが、災害等のマニュアルは作成しているが、訓練はまだ実施出来ていない。	春と秋に消防・地域住民を交えて日中夜間想定避難訓練を行っています。地域とは災害連絡網が整備されており、災害時には行政からのいち早い支援体制も取れています。災害時備蓄品も整備されています。停電対策、クマ対策のシュミレーションも検討しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを確保し、言葉かけや対応をしている。	苗字や下の名前ですん付で読んでおり、管理者は職員に相手と自分との信頼関係を結ぶように声掛けをお願いしています。入居時、個人情報の同意書は得ていますがインターネット使用による個人情報の同意書も交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようにしたいか希望を必ず聞いて自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり全員は難しいが、その日をどのように過ごしたいか、促しかけて希望に沿うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、髪型や服装には気をつけ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に片付けや、食事を共に行っており、好みに応じて食事内容を変更するなど楽しく食事が出来る様工夫をしている。	基本となっているベースの献立を基に、季節の食材を取り入れてメニューを作成しています。いつまでも食事を摂ることが出来る様に体調に合わせて食材を変えたりと工夫しています。食事の準備、後片付けは利用者も一緒に行い互いに協力し合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などは温度板で把握しており、状態に応じてお粥や、ミキサー・トロミをつけるなど柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促しており、誤嚥や口腔内のトラブルがないように努めている。口腔ケアも出来るだけ自立して出来る様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるよう、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	温度板により水分量や排泄パターンを把握しています。威圧的にならない様にトイレの誘導は耳元でさりげなく声を掛けています。今年度トイレの戸を職員全員で話し合い、開閉など安全に使い勝手よく改善しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、全員の排便状態の確認をし運動、医師、ご家族と相談しながら予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、自立して入浴できる方は少なく、午後からの入浴介助で行っている。週2回以上は入浴出来る様工夫している。	入浴は利用者の状況に合わせて週2回以上入れる様取り組んでいます。皮膚の状態等に応じ、湯の華を入れ工夫に努めています。利用者の希望に応じた支援を心掛け、入浴を拒否する利用者には無理強いせず、気分が和らぐように話しかけ、入浴が楽しめる様に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠状態を温度板で把握し、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を別途用意しており、何時でも確認出来るようになっている。服薬のマニュアルも用意している。事故が発生した時は早急に対策し、再発防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に対してほぼ満足できる状態はまだ十分とは言えないが、少しの時間でも「楽しかった」と思えるようにレクリエーション等の工夫をし始めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等では、出来るだけ全員参加できるように努めている。外泊希望されている入居者やご家族には出来るだけ協力し自宅で過ごせる時間を作れるよう支援している。	日常的に近所の花エール公園、森林に散歩や買い物等に出掛けています。年3回の行事には出来るだけ全員参加できるように、家族の協力を得ながら菊まつり・山の水族館に出掛けています。また、家族との時間を大切に自宅で過ごせる機会を多く持てる様支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族には、入居者の方の自己管理で、紛失しても良い金額で了解を頂き自室でお預かりしている。買い物へ行ける入居者の方は見守りで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じて、電話やお手紙のやり取りが出来るよう工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無いように壁紙や光に気を使い心地よく過ごせるよう努めている。	日当たりが良く明るい共用空間にはソファ・ベットが配置され、利用者がいつでもくつろげるスペースになっています。利用者の作ったパズルや行事の写真等も飾っており、落ち着ける空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で過ごせるよう、入居者の方の関係性に配慮しながら、ソファの席へご案内をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごせるよう、ベッドと福祉用具以外は今まで使用していた物を用意して頂いている。思い出の写真等も飾っている。	居室には収納スペース、ベットが備えつけられ、広々と安心して過ごせる様になっています。利用者は写真を飾ったりと自分らしく落ちつける部屋づくりと成っています。転倒のおそれがある利用者には絨毯・安全マット・転倒センサーが備えられ安全に配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、出来るだけ自立した生活を送れるよう工夫し、手すりや、必要に応じて福祉用具を使用している。		